

北海道浮魚ニュース

平成 16 (2004) 年度 14 号 (通巻 No.178)

2004 年 8 月 30 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 2004 年 8 月 18 日 ~ 8 月 26 日
 - ・ 調査海域 : 道南太平洋 (渡島半島沖 ~ 日高沖 ~ 下北半島沖 ~ 津軽海峡)
 - ・ 調査船 : 金星丸 (イカ釣機 5 台、イカ用集魚灯 20 灯装備)
- 昨年 (2003 年 8 月 25 ~ 29 日) のデータと比較しました。

分布密度は昨年より低く、魚体サイズは昨年より大きい

1. 水温分布 (図 1、2)

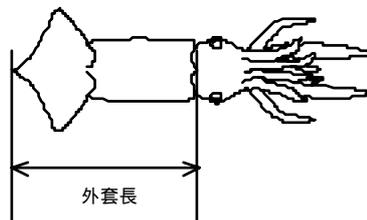
表面水温は、18.7 ~ 22.5 の範囲にあり、昨年に比べ高く、特に St.15 (浦河沖) を除く点では、1.0 以上高い値を示していました。深度 50 m 層の水温も昨年より高く、1.3 ~ 2.0 高い値を示していました。

2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

調査を行った 4 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は、2.3 ~ 24.3 の範囲 (昨年 : 3.9 ~ 49.9) にありました。北海道側の 3 点では、昨年を下回る値を示しました。全体の平均 CPUE は 13.9 であり、昨年より低い値でした。

3. スルメイカの大きさ (図 1、2、表 1)

スルメイカの外套長 (胴長) は、調査点全体で 15 ~ 26cm (昨年 12 ~ 27cm) の範囲にありました。モード (最も多く漁獲されたイカの大きさ) は 20 ~ 23cm にあり、昨年 (モード 15 と 21cm) に比べると、大型でした。



4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの分布状況は、昨年に比べ分布密度は低く、その魚体サイズは昨年よりも大型であることが予想されます。

(文責 : 函館水産試験場資源管理部、TEL : 0138-57-5997 直通、FAX : 0138-57-5991)

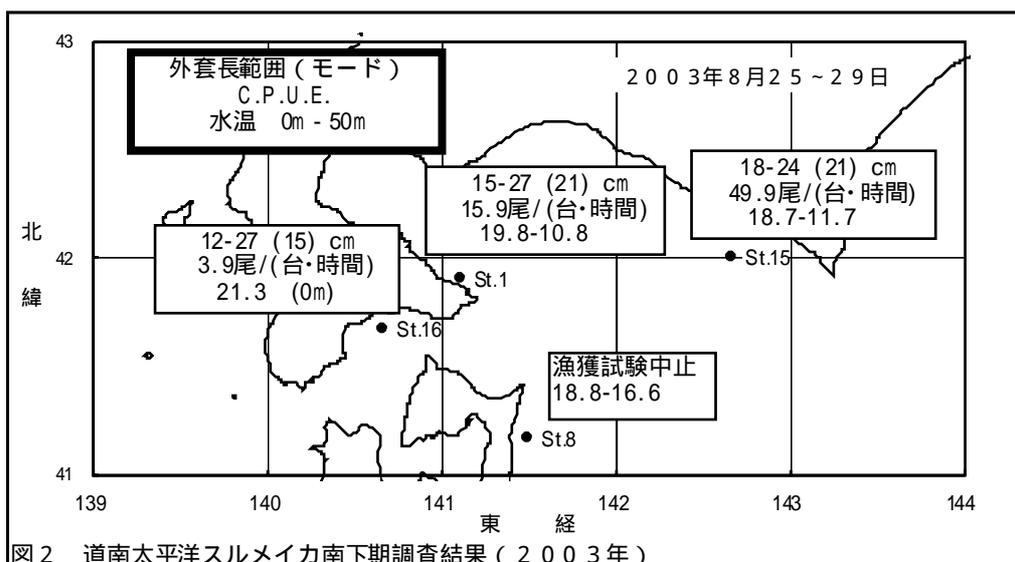
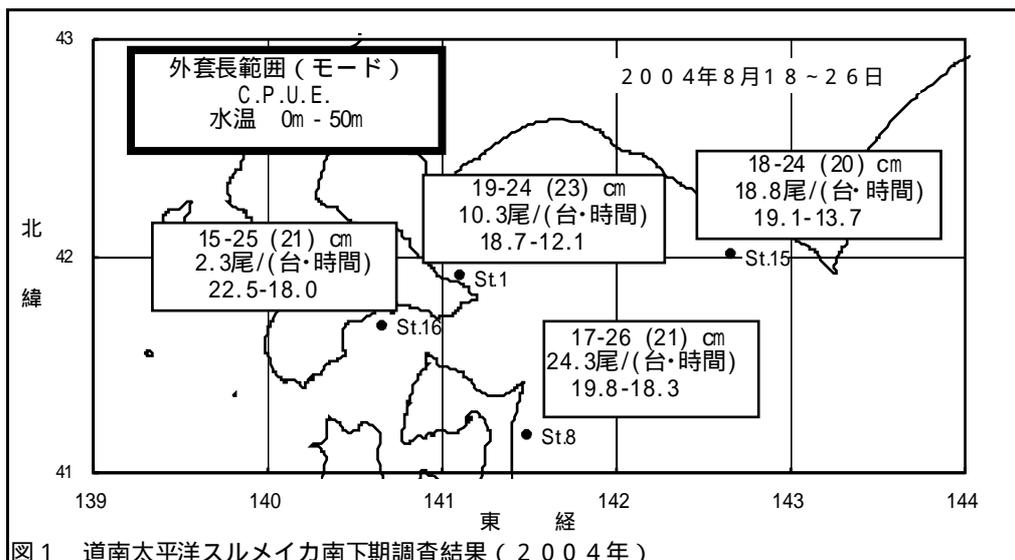


表1 道南太平洋スルメイカ南下期調査時のC P U E と外套長の経年変化

調査を実施した点の	1999(H11)	2000(H12)	2001(H13)	2002(H14)	2003(H15)	2004(H16)
平均CPUE(尾/台・時間)	3.2	9.7	47.1	19.2	23.2	13.9
外套長の範囲(cm)	14-28	11-28	17-29	18-28	12-27	15-26
外套長モードの範囲(cm)	20-22	15-21	20-22	22-24	15,21	20-23
水温()						
表層	22.1-25.0	22.0-25.4	20.1-23.4	19.1-20.1	18.7-21.3	18.7-22.5
50m層	10.0-20.2	8.0-20.1	12.1-17.4	11.3-18.4	10.8-16.6	12.1-18.3